



2023年12月期第2四半期 決算補足説明資料

株式会社イトーキ（東証プライム:7972）

2023年8月7日

2023年12月期 第2四半期 決算の状況

- ・ リニューアル案件やオフィス移転などを中心に売上高は好調に推移
- ・ 増収効果および提供価値の向上による利益率の改善により想定を上回る利益を確保
- ・ 第2四半期累計期間 売上高：過去最高、営業利益：最高益（16期ぶり）更新

2023年12月期 通期見通し

- ・ 第2四半期決算開示と同時に、通期業績予想および配当予想を修正
- ・ 株主還元方針を踏まえ、2023年12月期 1株当たり25円の配当金予想を7円増配し、32円予想へ修正
- ・ 売上高は、概ね当初計画通りに推移
- ・ 営業利益は、当初開示した営業利益目標65億円を上回る75億円へ予想修正。33期ぶり最高益を更新
- ・ 下期重点施策として、人的資本への更なる投資強化、DX推進、資産効率化に注力
- ・ 新中期経営計画を策定中（発表：2024年2月 予定）

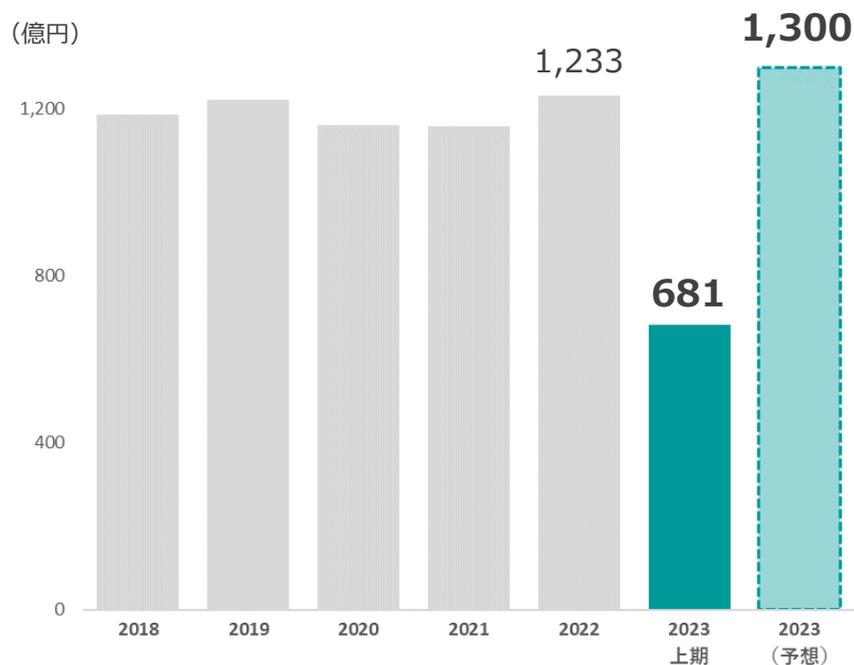
- 1. 2023年12月期 第2四半期 決算の状況**
- 2. 2023年12月期 通期見通し**

1. 2023年12月期 第2四半期 決算の状況

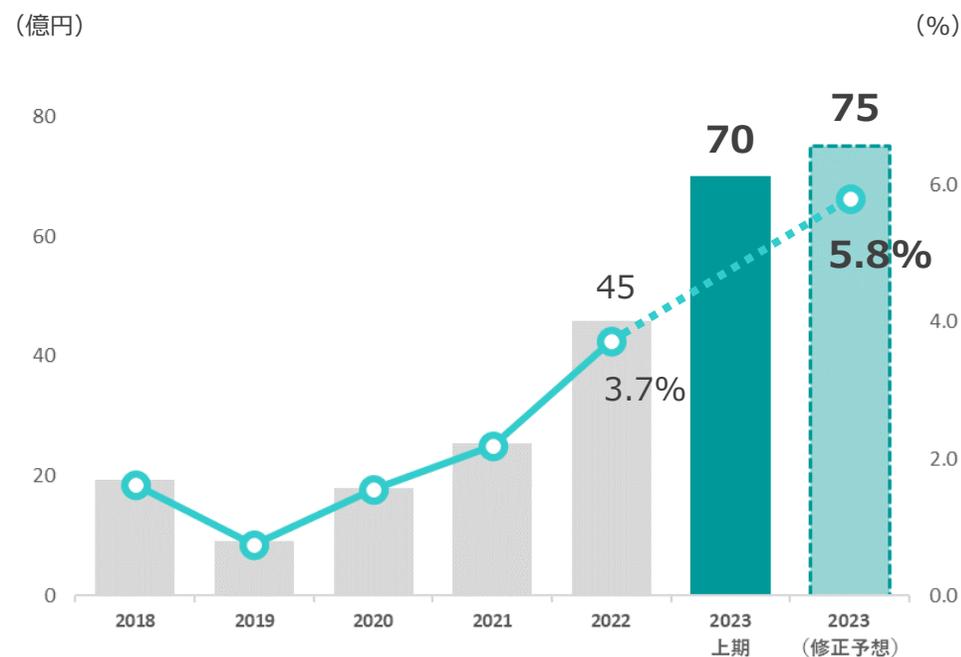
2. 2023年12月期 通期見通し

第2四半期累計期間 売上高：過去最高、営業利益：最高益（16期ぶり）更新
 通期業績予想修正 売上高：過去最高、営業利益：最高益（33期ぶり）更新

売上高



営業利益・営業利益率



※2020年度12月期および2021年度12月期はコロナ禍の影響

リニューアル案件やオフィス移転などを中心に売上高は好調に推移
 増収効果および提供価値の向上による利益率の改善により想定を上回る利益を確保

2023年1月1日～2023年6月30日

単位：億円	22/12 第2四半期		23/12 第2四半期		増減		通期年初予想	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	増加率	金額	進捗率
売上高	637	—	681	—	+44	+7.0%	1,300	52.5%
売上原価	395	62.0%	411	60.4%	+16	+4.2%	—	—
売上総利益	242	38.0%	270	39.6%	+27	+11.5%	—	—
販管費	198	31.2%	200	29.4%	+1	+0.7%	—	—
営業利益	43	6.9%	70	10.3%	+26	+60.2%	65	107.7%
経常利益	44	6.9%	70	10.4%	+26	+60.7%	65	109.2%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	36	5.8%	47	6.9%	+10	+28.1%	37	127.2%

連結貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書サマリー

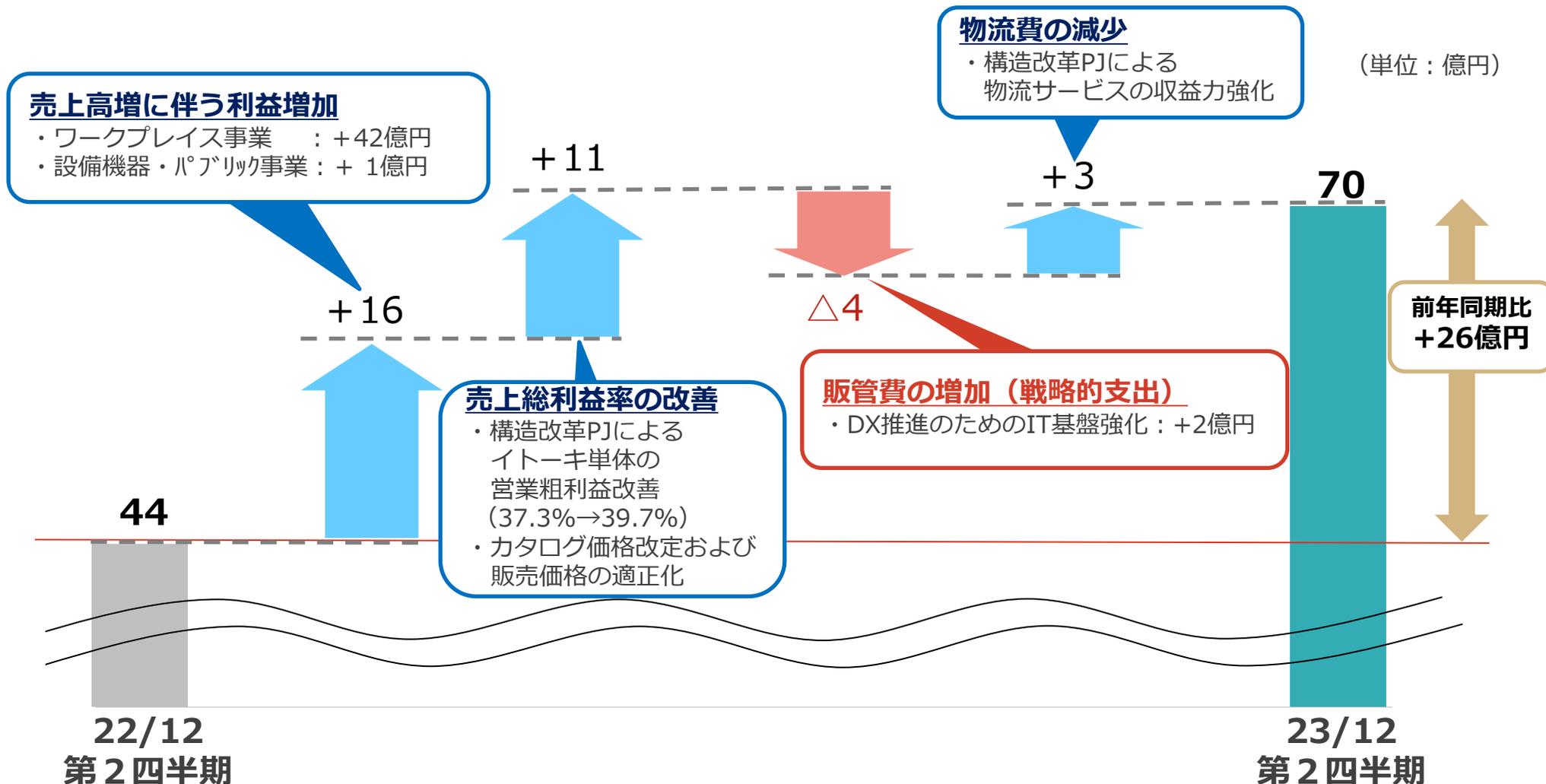


2023年1月1日～2023年6月30日

単位：億円

連結貸借対照表要旨	2022年12月末	2023年6月末	増減	摘要
流動資産	710	687	△23	法人税等の納付や賞与による現預金の減少
固定資産	442	429	△13	減価償却等による減少
資産合計	1,152	1,116	△36	
流動負債	490	425	△65	法人税等の納付や賞与による減少
固定負債	162	157	△5	長期借入金の返済による減少
負債合計	653	582	△71	
株主資本合計	491	522	+31	
純資産合計	499	534	+35	
連結キャッシュフロー計算書要旨	2023年度 2Q実績		摘要	
営業活動によるキャッシュ・フロー	40		税金等調整前四半期純利益等による増加	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32		ITOKI TOKYO XORKのリニューアル等の戦略的支出	
フリーキャッシュ・フロー	8			
財務活動によるキャッシュ・フロー	△32		配当金の支払による減少	
現金及び現金同等物の増減額	△24			
現金及び現金同等物の四半期末残高	229			

売上高増、構造改革プロジェクトの売上総利益率改善、物流費の減少により、
戦略的支出の増加分を吸収し、大幅増益



■ ワークプレイス事業

- ・ ハイブリッドな新しい働き方にあわせてリニューアル案件やオフィス移転などを中心に売上高は好調に推移
- ・ 増収効果および提供価値の向上による利益率の改善により、大幅増益

■ 設備機器・パブリック事業

- ・ 博物館、美術館の展示ケースやデジタルサイネージ等の公共施設向け設備の需要に伴い売上高は堅調に推移
- ・ 公共施設向けの増収効果および提供価値の向上による利益率の改善により、増益

2023年1月1日～2023年6月30日

単位：億円	22/12 第2四半期	23/12 第2四半期	増減		
			金額	増加率	
ワークプレイス	売上高	447	490	+42	+9.5%
	営業利益	26	52	+25	+95.3%
	〔営業利益率〕	〔6.0%〕	〔10.6%〕	—	〔+4.6pt〕
設備機器・パブリック	売上高	181	182	+0.9	+0.5%
	営業利益	14	15	+0.4	+3.3%
	〔営業利益率〕	〔8.1%〕	〔8.3%〕	—	〔+0.2pt〕
IT・シェアリング	売上高	7	8	+0.7	+9.8%
	営業利益	2	2	+0.0	+3.4%
	〔営業利益率〕	〔27.1%〕	〔25.4%〕	—	〔△1.7pt〕

着実な成果、結果が利益として結実。引き続き取り組みを進めていく

営業改革 に関する取り組み



高付加価値提案による収益力の向上



コンサルティングサービスの強化・拡大



配送体制の最適化



業績評価指標の浸透

生産・供給 に関する取り組み



新たなアSEMBル生産拠点であるAPセンターの稼働



新商品開発におけるサプライチェーンとの関係強化



原価低減に資する製造体制の構築

資産効率化 に関する取り組み



非事業用資産の売却等整理を含む資産の効率化および有効活用の推進



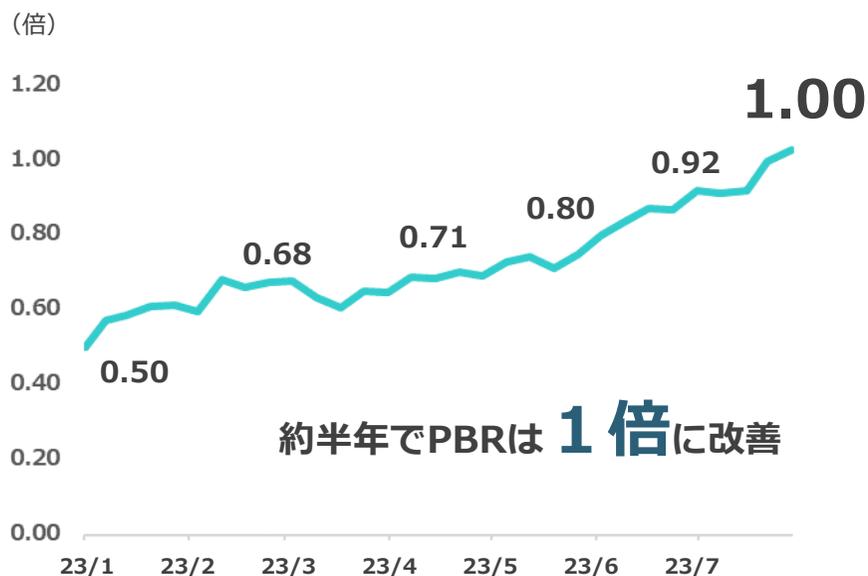
政策保有株式の縮減

財務戦略（資本コストを意識した経営）

収益力の更なる強化を図るとともに、ESGを含む情報の適時・適切な開示や資本政策を含む資本コストの改善策を着実に実行し、エクイティスプレッド（ROE－資本コスト）を改善することによりPBRを向上させていきます



■ 直近6か月のPBRの推移



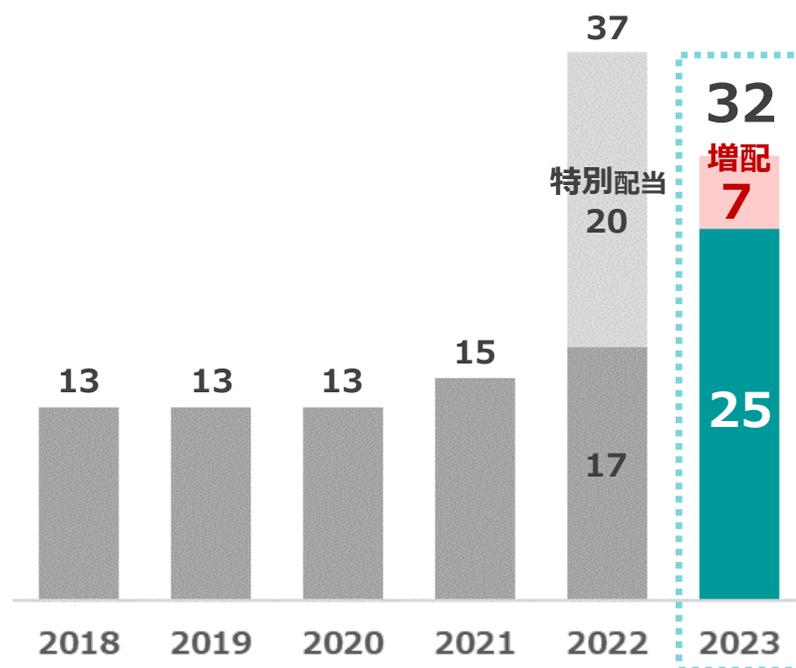
重点テーマ

1. 利益創出能力の強化
2. 財務・資本戦略の強化
3. 積極的なIR活動

2023年5月12日開示
 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/7972/tdnet/2276883/00.pdf>

株主還元方針を踏まえ、2023年12月期 1株当たり25円の配当金予想を7円増配し、32円予想へ修正

【1株当たり年間配当金（円）の推移】



株主還元方針

当社は、利益配分を経営の重点政策の一つとして認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開等を総合的かつ長期的に勘案した上で、配当性向30%超を目処とし、株主の皆様継続的かつ安定的に配当することを基本としております。

内部留保金につきましては、将来の成長に不可欠な研究開発や成長分野への戦略的な投資を中心に効率的に活用してまいります。

1. 2023年12月期 第2四半期 決算の状況

2. 2023年12月期 通期見通し

- ・ 売上高は、概ね当初計画通りに推移
- ・ 営業利益は、当初開示した営業利益目標65億円を上回る75億円へ予想修正
- ・ 下半期は、今後の成長戦略を見据えた人的資本投資（教育投資やオフィス環境整備等）の強化や、DX推進等の戦略的投資を見込むものの、上半期までの体質改善効果が継続することにより、前年以上の利益水準で推移を見込む

2023年1月1日～2023年12月31日

単位：億円	2022年12月期 実績	2023年12月期 年初予想	2023年12月期 修正予想	増減	
				前期比	年初予想比
売上高	1,233	1,300	1,300	+67 〔+5.4%〕	+0 〔+0.0%〕
営業利益	45	65	75	+30 〔+63.7%〕	+10 〔+15.4%〕
経常利益	41	65	75	+34 〔+79.5%〕	+10 〔+15.4%〕
親会社株主に帰属 する当期純利益	52	37	48	△4 〔△9.3%〕	+11 〔+29.7%〕
〔営業利益率〕	〔3.7%〕	〔5.0%〕	〔5.8%〕	+2.1pt	+0.8pt

対前年下期 2倍超の営業利益を見込む

2023年7月1日～2023年12月31日

単位：億円	2022年12月期 下期実績	2023年12月期 下期予想	増減	
			金額	増加率
売上高	595	618	+22	+3.8%
営業利益	2	5	+3	+136.9%
経常利益	△2	4	+6	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	16	1	△15	△93.6%

※2022年12月期 四半期純利益：特別利益計上の寄与あり
 (非事業固定資産の売却等：寝屋川工場跡地の売却益65億円)

構造改革がもたらす経営の進展にフォーカスした 「統合報告書2023」を発行



創業当時から受け継がれるDNAを「Tech×Design」と表し、中期経営計画「RISE ITOKI 2023」の最終年度に向けた着実な成果を多様な観点から報告しています。財務・非財務の両面における取り組み内容についての情報を拡充したほか、女性活躍推進、新素材研究、DX推進に焦点を当てた特集ページを新たに設け、当社の独自性のある価値創造に挑戦する姿勢を表明しました。

[統合報告書2023](#)

■ 経営改革に資する3つの取り組み（特集ページ）

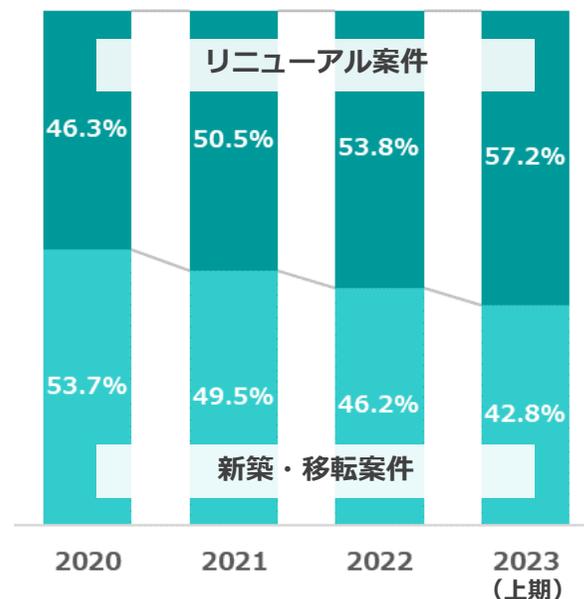
<p>特集① 女性活躍推進</p> <p>多彩な輝きが、 会社をより良く変えていく</p> <p>マブリー -SPLiによる企業文化変革への挑戦-</p> <p>イトーキは、リーダーシップをもった女性の活躍推進を課題として、さらなる多様性の巻き込みと、オープン・フリー・フラットな企業文化の醸成を目指すという変革を進めており、リーダーシップを発揮するための知識・スキルの習得や、継続的なキャリアデベロップメントをサポートするコミュニティ(SPLi)を構築させました。 今回は5名のリーダーが、コミュニティの活動について語りました。</p>	<p>特集② 新素材研究</p> <p>“気づき”と“出会い”から始まった サーキュラー・エコノミーへの挑戦</p> <p>-コーヒーの豆粕を家具にする-</p> <p>イトーキでは、これまで世界になかった新素材の可能性を追求し、技術開発部隊での研究を推進しています。 今回は、コーヒー豆粕を利用して家具素材にするプロジェクトに関して、木質バイオマス研究の第一人者である野中教授、グループ会社ダイトンの滝井執行役員と当社2名で、研究の現状や将来の可能性などを語っていただきました。</p> <p>MIE UNIVERSITY × DAITON × ITOKI</p> <p>株式会社イトーキ 技術開発部長 滝井 直哉 株式会社ダイトン 執行役員 技術開発部長 滝井 直哉 株式会社イトーキ 技術開発部長 滝井 直哉 株式会社イトーキ 技術開発部長 滝井 直哉</p>	<p>特集③ DX推進</p> <p>イトーキの ビジネスを 強く太くする DX</p> <p>革新的なスマートオフィス商品の開発とDXをツールとして活用することにより、社員が会社だけでなくオフィスを実現するとともに、イトーキならではのデータサービスにより、お客さまとつながり続ける関係性を構築していきます。</p> <p>イトーキDX推進部長 大月 剛 イトーキDX推進部長 大月 剛</p>
--	--	--

下期も引き続き好調

単位：億円	22/12 実績	23/12 年初予想	23/12 修正予想	増減	
				前期比	年初予想比
売上高	859	927	927	+67 〔+7.9%〕	+0 〔+0.0%〕
営業利益	25	45	53	+27 〔+106.7%〕	+8 〔+17.7%〕
〔営業利益率〕	〔3.0%〕	〔4.9%〕	〔5.7%〕	+2.7pt	+0.8pt

イトーキ単体における商談別売上構成の推移

※100%積み上げ縦棒グラフ（売上構成比の変化）



オルガテック東京2023



「オルガテック東京2023」開催概要

ドイツ発・アジア最大級のオフィス家具見本市。
世界から120以上のブランドやメーカーが参加。

日時：2023年4月26日（水）～4月28日（金）
会場：東京ビッグサイト



博物館、美術館の展示ケースやデジタルサイネージ等の 公共施設向け設備の需要拡大

単位：億円	22/12 実績	23/12 年初予想	23/12 修正予想	増減	
				前期比	年初予想比
売上高	356	355	355	$\Delta 1$ 〔 $\Delta 0.5\%$ 〕	$+0$ 〔 $+0.0\%$ 〕
営業利益	14	14	16	$+1$ 〔 $+8.0\%$ 〕	$+2$ 〔 $+14.3\%$ 〕
〔営業利益率〕	〔4.2%〕	〔3.9%〕	〔4.5%〕	+0.3pt	+0.6pt

新型展示ケース
Artivista（アルティビスタ）



東京国立博物館へ納入

下期の構造改革プロジェクト

下期重点施策

人的資本への 更なる投資強化



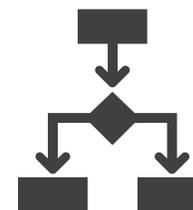
- オフィスリニューアル
- 人財拡充
- 教育投資
(DXトレーニング、選択型研修等)
- 従業員への処遇拡充
(業績連動賞与、人員拡充等体制強化等)

DX推進



- 基幹システムのクラウド化
 - ・ ハードウェア老朽化対策
 - ・ 要件定義・システム設計
(2024年10月サービス開始予定)
- AI等へのシステム投資

資産効率化



- 物流拠点の見直し
 - ・ 首都圏配送の配送効率を最大化
 - ・ より効率的な物流業務の実施
 - ・ BCPおよび環境対策

VISION STATEMENT

人も生き生き、地球も生き生き

MISSION STATEMENT

明日の「働く」を、デザインする。

<創出フェーズ>

2032

明日の「働く」をリードする

- ・イトーキ特有のデジタルサービスの提案
- ・働く空間の更なるDX基盤の強化、市場の拡大

<高収益化フェーズ>

2024-2026

持続的な成長力を高める

- ・更なる収益力の強化
- ・次世代のオフィスの提案 (Office A/BI、 Office3.0)
- ・有望事業強化による事業拡大 (研究施設および物流施設機器分野等)

<体質改善フェーズ>

2021-2023

収益体質のつくりこみ

2023

2026

2032

appendix

世界三大デザイン賞のひとつ「レッドドット・デザイン賞2023」を受賞

3製品Olika（オリカチェア）、torteU（トルテユーチェア）、inSAIL（インセイル）が、国際的に権威あるデザイン賞のひとつであるドイツの「red dot design award 2023」プロダクト部門にて「レッドドット・デザイン賞2023」を受賞しました。



reddot winner 2023



Olika（オリカチェア）

torteU（トルテユーチェア）

inSAIL（インセイル）

世界三大デザイン賞のひとつ「iFデザインアワード2023」を受賞

4製品Olika（オリカチェア）、LINEA（リネアチェア）、iwasemi-HXa（イワセミHXa）、carry tap（キャリータップ）が、国際的に権威あるデザイン賞のひとつであるドイツの「iF デザインアワード 2023」を受賞しました。



Olika（オリカチェア）



LINEA（リネアチェア）



iwasemi-HXa（イワセミHXa）



carry tap（キャリータップ）

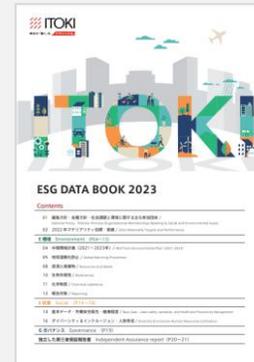
統合報告書2023



イトーキグループの企業価値と中長期的に目指す姿を財務・非財務の両面から網羅的に掲載しています。

 [統合報告書2023](#)

ESG DATA BOOK 2023



マテリアリティに対するKPIの達成状況及び、環境・社会・ガバナンスの実績をくわしく開示しています。

 [ESG DATA BOOK 2023](#)

メタバースを活用した「バーチャルSTEAM教室」を開発し、静岡聖光学院にて実装



G7広島サミット本会合での首脳用椅子に「フリップフラップチェア」が採用



民間主導で日本初となるJ-クレジットのマーケットプレイスを公開

国際認証カーボンクレジットをオンライン購入できる「e-dash Carbon Offset」がイトーキと連携

民間主導では日本初
J-クレジットのマーケットプレイスを公開

edash Carbon Offset

提供開始!

J-クレジットをワンストップで希望のタイミングで必要なだけ購入可能に

業績

売上高／売上高総利益率



営業利益／売上高営業利益率



親会社株主に帰属する当期純利益／1株あたり当期純利益



収益性／効率性指標

ROE



ROA



総資産／総資産回転率



自己資本比率

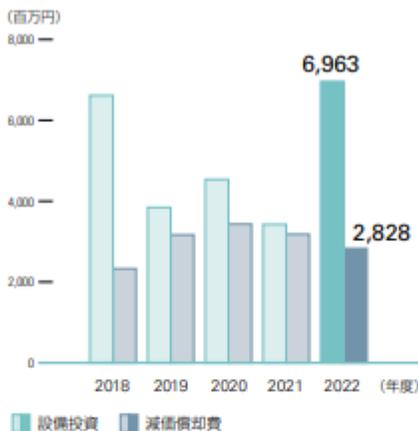


成長投資

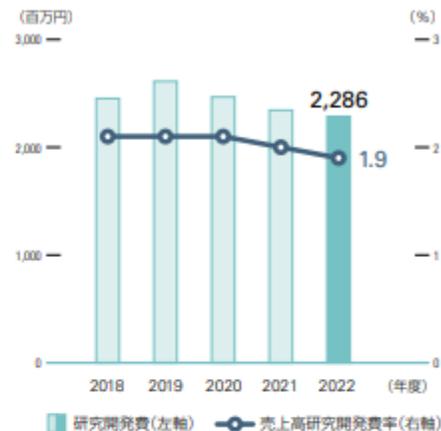
有利子負債/D/ELシオ



設備投資/減価償却費



研究開発費/売上高研究開発費率



株主還元

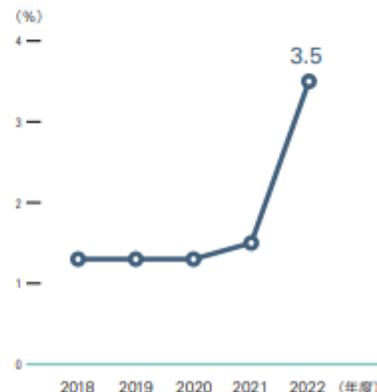
1株あたり配当金/配当金の総額



自己株取得総還元性向



DOE



TSR



＜注意事項＞

- 当社の連結決算は日本会計基準を採用しております。
- 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後のさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社イトーキ
広報IR部

電話:03-6910-3910
E-mail:itk-ir@itoki.jp
<https://www.itoki.jp/ir/>

明日の「働く」を、**デザインする。**